

[拠点形成概要及び採択理由]

機 関 名	大阪市立大学
拠点のプログラム名称	文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築
中核となる専攻等名	都市研究プラザ
事業推進担当者	(拠点リーダー) 佐々木 雅幸 教授 外 15 名

[拠点形成の目的]

日本最大の公立大学、都市研究の日本の中枢である大阪市立大学は、21世紀の都市研究の水準をさらに向上すべく、平成14年度にCOE都市研究センター、海外サブセンターの開設、15年度に大学院創造都市研究科創設、同年度に学内の都市問題研究助成の開始、18年度に経済研究所と都市問題資料センターを発展的に継承した都市研究プラザの創設と、ダイナミックに都市研究教育基盤を拡充してきた。

本拠点形成では、この拡充プログラムを都市研究プラザに集中させることによりさらに強化する。世界都市、持続可能都市、コンパクト都市、ポストモダン都市などの21世紀の都市像の混迷に苦悶し疲弊する都市の今後の指向を前望し、21世紀都市のガバナンスの再定義と、文化創造と社会的包摂を旗印として掲げる。新しい公共知を生み出すことを通じて、都市を再構築する実力を有する学術成果と人材育成を成し遂げることを最大の目的とする。その観点からの先端都市論の発信拠点形成を企図している。

同時にこの都市の再構築の作業を通じて、斬新で今までにない大学の教育研究スタイルを大胆に提案している。ひとつはプロジェクトと直結した現場プラザでの社会実験道場において、徹底して市民知の現場へ参入し、現実対応能力が低下した「官知」がなお支配力を有する都市政策の再構築をもくろんでいる。とくに、既成の都市政策の取組みが最も遅れ苦手な分野である、アートによる都市コミュニティの再創造や、ホームレス、日雇労働者、高齢生活保護者の自立支援を軸にした社会的包摂の実現を、初動期の最大の取り組み課題としている。

また国際的には、都市政府として最も長い歴史を有し、その意味での官知の功罪が最も問われている大阪市と、海外サブセンターの所在するベンチマーク都市群を比較し、都市ガバナンスの歴史の変遷の本質を問いながら、21世紀の世界的な先端の都市論を練磨するアカデミズムの国際的な道場を提供することもめざしている。

こうした組織の形成により、これまで縦割りの研究細分化のために飛躍の機会を得られなかった若手研究者に対して、実践的かつ横断的・国際的な修行・挑戦の機会を提供し、世界を舞台に自律して活動する能力の高い人材の育成をもくろんでいる。

[拠点形成計画の概要]

こうした目的課題に対する接近法として、①大都市の国際的研究のネットワーク化、②知的プラットフォームの国際開放、③市民知と学知の邂逅と融和、④ホロニックなプロジェクト展開、をめざして、3つの研究ユニットすなわち都市の空間論、文化創造、社会的包摂ユニットが、都市の再構築戦略をデザインし実践する。この構想を実現するキー装置は、おのおの数箇所以上の現場プラザと海外サブセンターである。これらプラザやサブセンターは、街に溶け込む形でローカルに存在し、実践的なプロジェクトの展開の場、市民知との邂逅と対話、交流の現場、若手育成のための社会実験道場となる。

若手研究者の育成は、DCからPD、そして助教クラスを対象とし、最大年度で、50名程度の在籍者を計画している。育成コースはマイスターコースとグローバルコースに分けられる。マイスターコース生は、社会実験道場のプロジェクトに主体的にかかわり、文化創造や社会的包摂に向けての実践を積んで現場スキルを磨く。同コースでは、PhD候補生を主眼とした海外若手研究者も受け入れる。ベンチマーク都市群での調査基地として本拠点施設を提供するとともに、日本人若手研究者への刺激としても活用しようとする制度である。グローバルコースでは、市民知の普遍性あるいはローカルティを入念に、かつ国際的に踏査し、都市ガバナンスの歴史の変遷の本質を問いながら21世紀の世界的な都市論を練磨する。

都市の国際的な研究ネットワーク化に関しては、既設の上海、バンコク、ジョグジャカルタ、ロサンゼルスのほか、新設予定の香港やソウルのサブセンターとの連携により、ベンチマーク都市群において文化創造や社会的包摂をめざす実験プロジェクトも推進する。ローカルを深く掘り下げてグローバルに展開するという、新たな都市研究の境地を開拓することを企図している。

そして、こうした基幹プロジェクト群の遂行による社会実験を通じて、文化創造と社会的包摂の両ユニットを架橋しながら、若手研究者の人材を育成しつつ、新しい公共性に関わるいくつかの都市の知のセンターを形成する。具体的には、創造都市センター、アートマネジメントセンター、社会包摂センター、パブリックヒストリーセンター、空間形成センターを構想している。

機 関 名	大阪市立大学
拠点のプログラム名称	文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築
<p>【採択理由】</p> <p>21世紀COEプログラムの実績を踏まえて、戦略的教育研究組織として創設した「都市研究プラザ」を軸に、都市と文化に関する拠点としてのビジョンが明確で、大学の管理・運営・支援体制も強固と言える。都市論・文化論・社会論の三本柱で新しいタイプの都市の再構築を目指す構想は高く評価できる。</p> <p>人材育成面においては、「市民知」を取り込むための研究フィールドを十分活用し、現場・現実に即した人材育成システムを取っている点が、ユニークである。</p> <p>研究活動面においては、日本における都市研究の中心として、拠点形成を実現する業績の蓄積は十分あるが、都市問題研究を世界に向けて発信するという面から、「アジア都市論」の強化など、更なる工夫が望まれる。</p>	